

農業・農村についてのアンケート結果

調査時期：平成22年 7月
 対象者：県政モニター 194人
 回答数：140人（回収率72.2%）
 担当課：農村振興課
 調査目的：

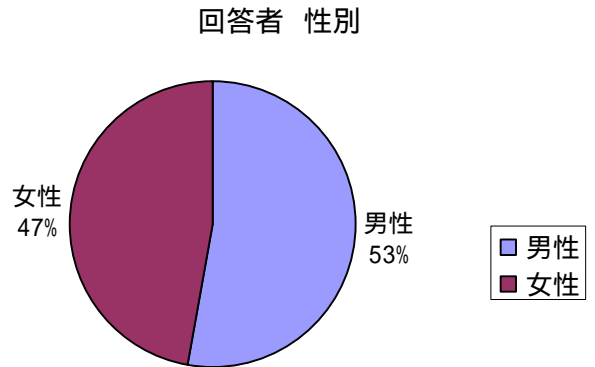
農業や農村は、食料を供給するだけでなく、農という営みを通じて、琵琶湖などの豊かな自然環境や心やすらぐ美しい景観の形成など、将来を担う子どもたちに伝えていくべき多面的な役割を担っています。

県では、こうした農村を次世代に引き継いでいくため、平成19年度から「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」を実施し、農地や農業用水、農村の豊かな自然環境を農家だけでなく、さまざまな人々の参加による「地域ぐるみで農村をまるごと守る共同活動」やそれらと一体的に行う「環境こだわり農業」を推進しています。

農業・農村に対する考えやご意見をお聞きし、今後の事業に対する基礎資料とするため実施いたしました。

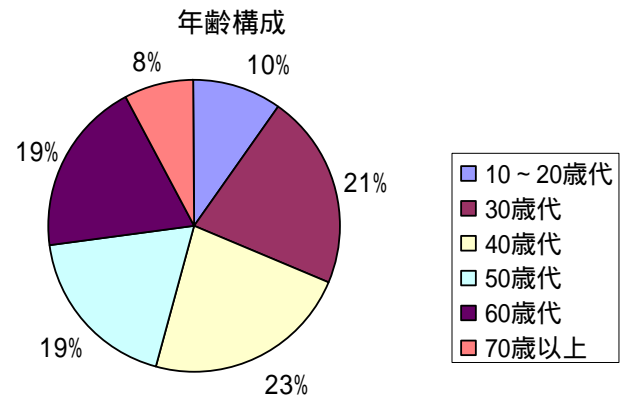
問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
男性	74	52.8
女性	66	47.2
合計	140	



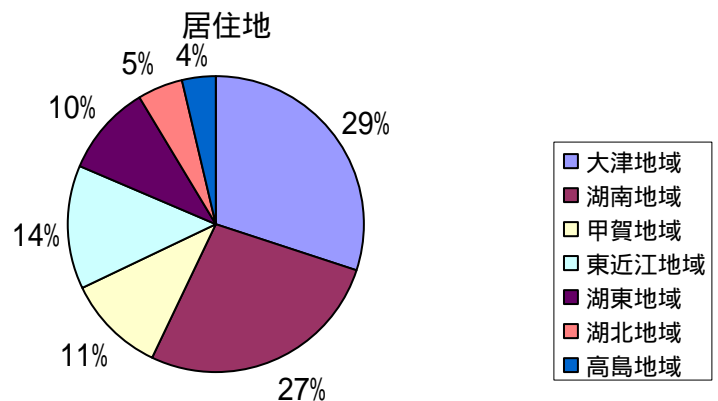
問2 あなたの年齢を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	14	10.0
30歳代	30	21.4
40歳代	32	22.9
50歳代	26	18.5
60歳代	27	19.3
70歳以上	11	7.9
合計	140	



問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

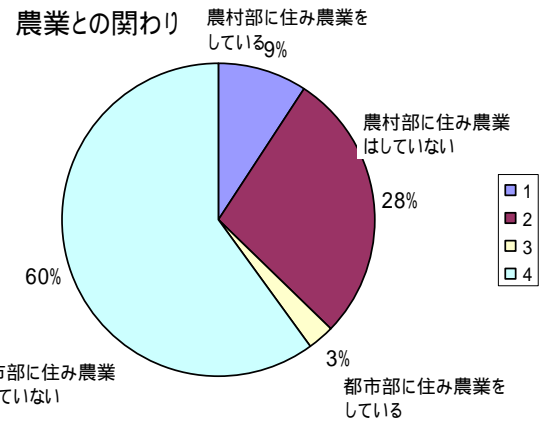
項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	42	30.0%
湖南地域	38	27.1%
甲賀地域	15	10.7%
東近江地域	19	13.6%
湖東地域	14	10.0%
湖北地域	7	5.0%
高島地域	5	3.6%
合計	140	



農業・農村について

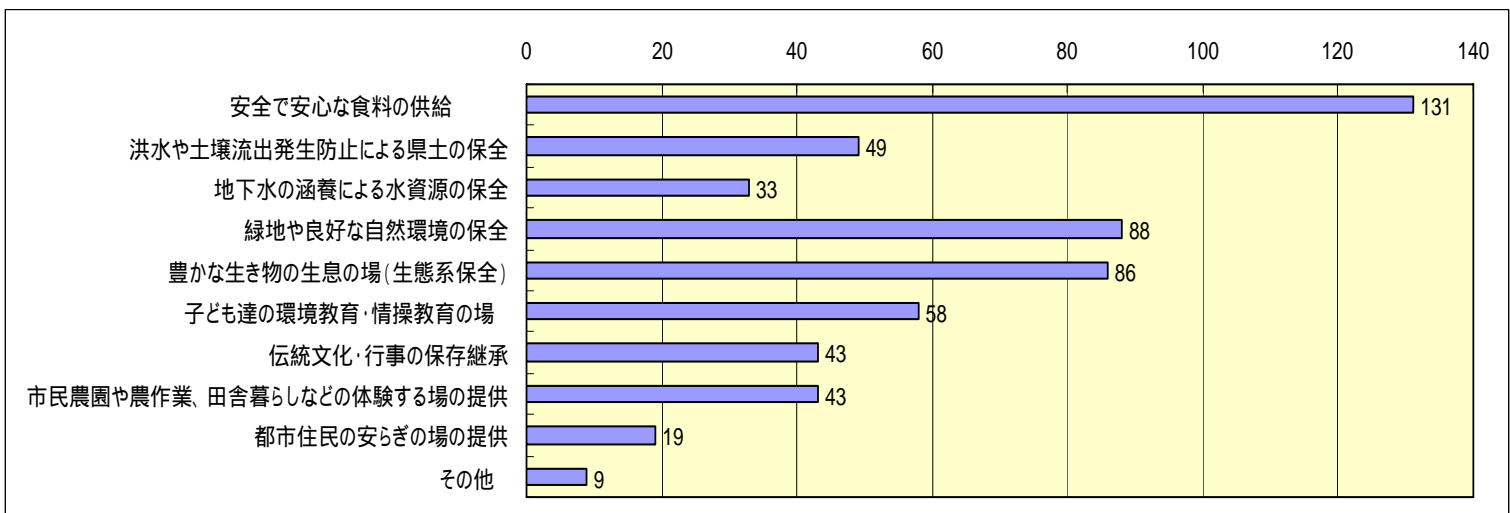
問4 あなたと農業・農村との関わりを教えてください。

項目	人数	割合(%)
農村部に住み農業(規模の大小は問わない)をしている	13	9.3%
農村部に住んでいるが農業は全くしていない	39	27.9%
都市部に住み農業(規模の大小は問わない)をしている	4	2.9%
都市部に住み農業は全くしていない	84	60.0%
	140	



問5 農業・農村の持つ役割の中で重要だと思うものはどれですか。(複数回答可)

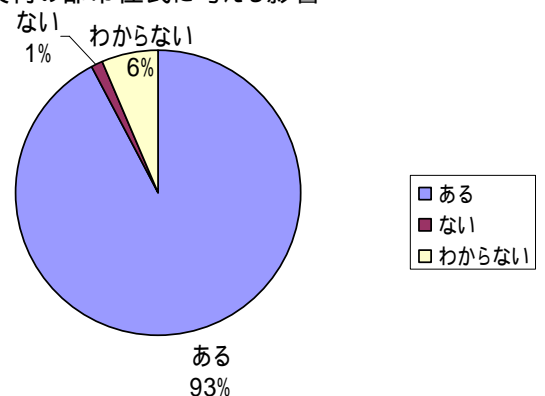
項目	人数	割合(%)
安全で安心な食料の供給	131	93.6%
洪水や土壌流出発生防止による県土の保全	49	35.0%
地下水の涵養による水資源の保全	33	23.6%
緑地や良好な自然環境の保全	88	62.9%
豊かな生き物の生息の場(生態系保全)	86	61.4%
子ども達の環境教育・情操教育の場	58	41.4%
伝統文化・行事の保存継承	43	30.7%
市民農園や農作業、田舎暮らしなどの体験する場の提供	43	30.7%
都市住民の安らぎの場の提供	19	13.6%
その他	9	6.4%



問6 問5であげている農業・農村の持つ多くの機能の存続は、都市住民の生活にも影響があると思われますか。

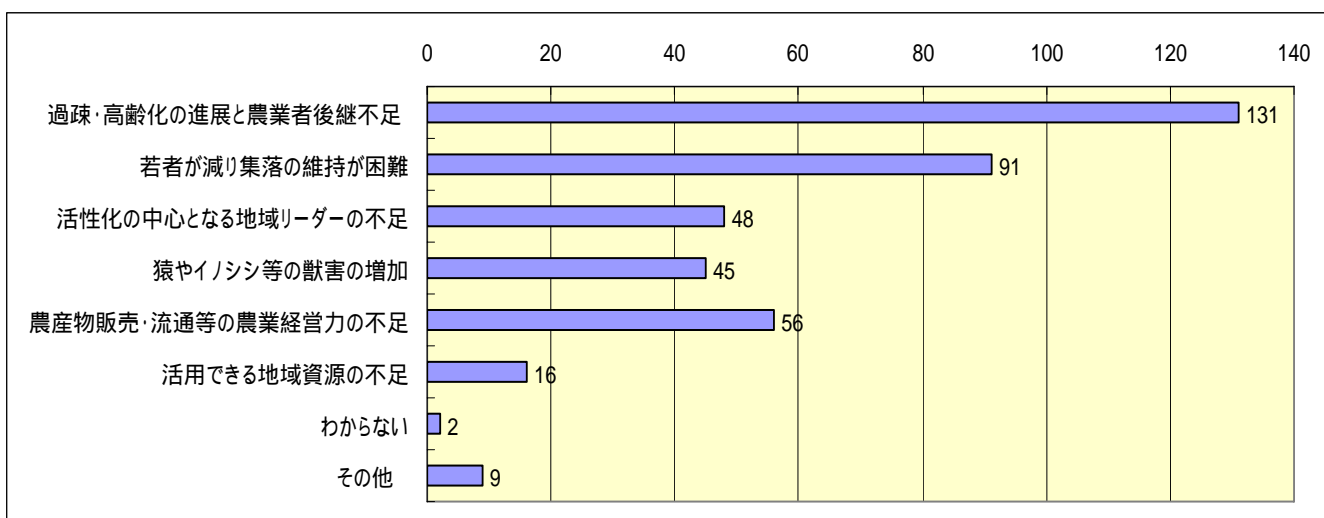
項目	人数(人)	割合(%)
ある	129	92.1%
ない	2	1.4%
わからない	9	6.4%
合計	140	

農業農村の都市住民に与える影響



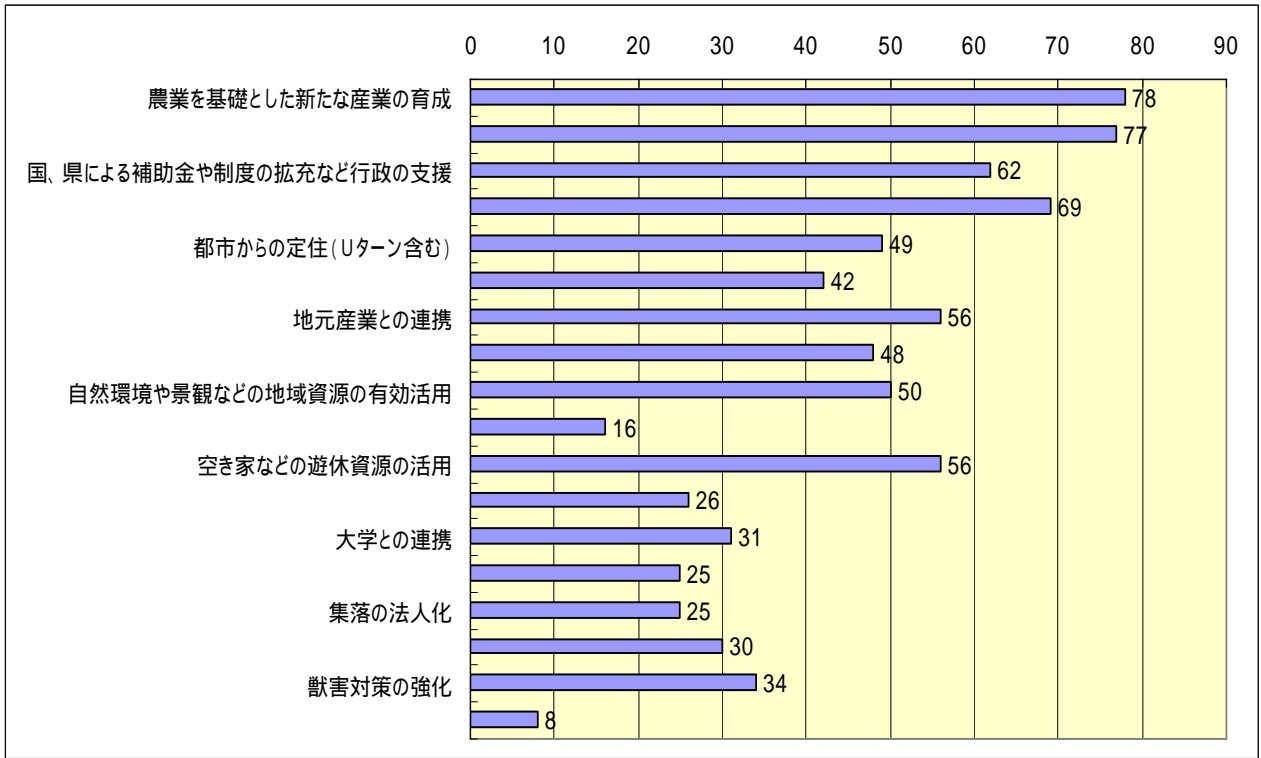
問7 一般的に農業・農村が抱える問題は何だと思われますか。（複数回答可）

項目	人数(人)	割合(%)
過疎・高齢化の進展と農業者後継不足	131	93.6%
若者が減り集落の維持が困難	91	65.0%
活性化の中心となる地域リーダーの不足	48	34.3%
猿やイノシシ等の獣害の増加	45	32.1%
農産物販売・流通等の農業経営力の不足	56	40.0%
活用できる地域資源の不足	16	11.4%
わからない	2	1.4%
その他	9	6.4%
合計	140	



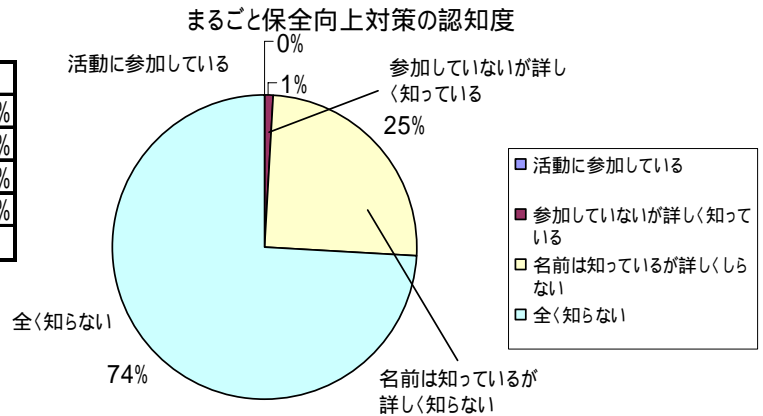
問8 農村を活性化するためにはどのような対策が必要だと思われますか。（複数回答可）

項目	人数(人)	割合(%)
農業を基礎とした新たな産業の育成	78	55.7%
耕作放棄地の積極的活用	77	55.0%
国、県による補助金や制度の拡充など行政の支援	62	44.3%
地域の人材育成	69	49.3%
都市からの定住（Uターン含む）	49	35.0%
都市と農村の交流	42	30.0%
地元産業との連携	56	40.0%
6次産業化の推進	48	34.3%
自然環境や景観などの地域資源の有効活用	50	35.7%
集落内の話し合いや議論の場の確保	16	11.4%
空き家などの遊休資源の活用	56	40.0%
地域外の企業との連携	26	18.6%
大学との連携	31	22.1%
NPOとの連携	25	17.9%
集落の法人化	25	17.9%
生活環境向上のための集落内整備	30	21.4%
獣害対策の強化	34	24.3%
その他	8	5.7%
合計	140	



問9 あなたは、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」を知っていますか。

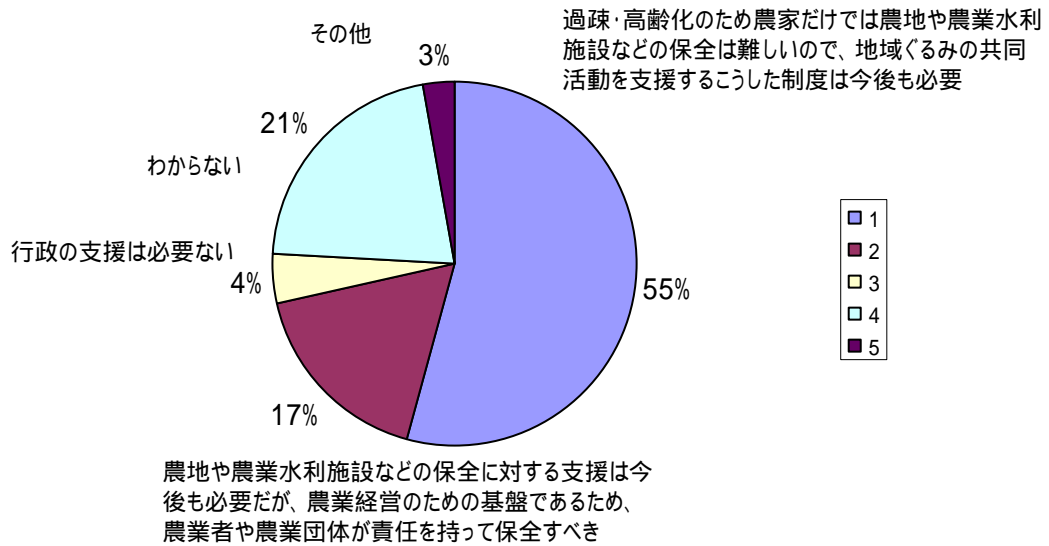
項目	人数(人)	割合(%)
活動に参加している	0	0.0%
参加していないが詳しく知っている	1	0.7%
名前は知っているが詳しく知らない	35	25.0%
全く知らない	104	74.3%
合計	140	



問10 農村を良好な姿で次世代に引き継いでいくため「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」を推進していますが、この制度についてどう思われますか。

項目	人数(人)	割合(%)
過疎・高齢化のため農家だけでは農地や農業水利施設などの保全は難しいので、地域ぐるみの共同活動を支援するこうした制度は今後も必要	76	54.3%
農地や農業水利施設などの保全に対する支援は今後も必要だが、農業経営のための基盤であるため、農業者や農業団体が責任を持って保全すべき	24	17.1%
行政の支援は必要ない	6	4.3%
わからない	30	21.4%
その他	4	2.9%
合計	140	

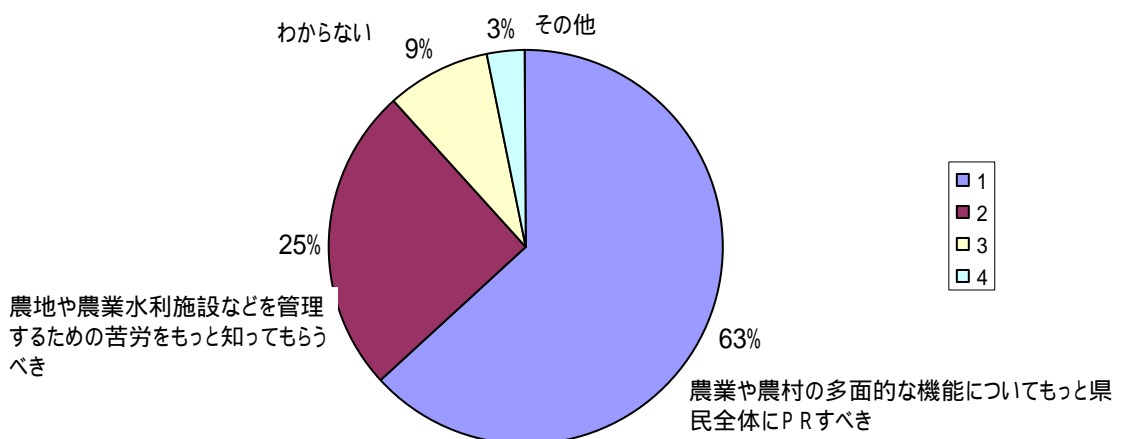
この制度について



問 11 「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」では、農地や農業用水、農村の豊かな自然環境を農家だけでなく、さまざまな人々の参加により守る「地域ぐるみで農村をまるごと守る共同活動」を推進していますが、こうした取り組みが県民全体に広がっていくためには何をすべきだと思いますか。（複数回答可）

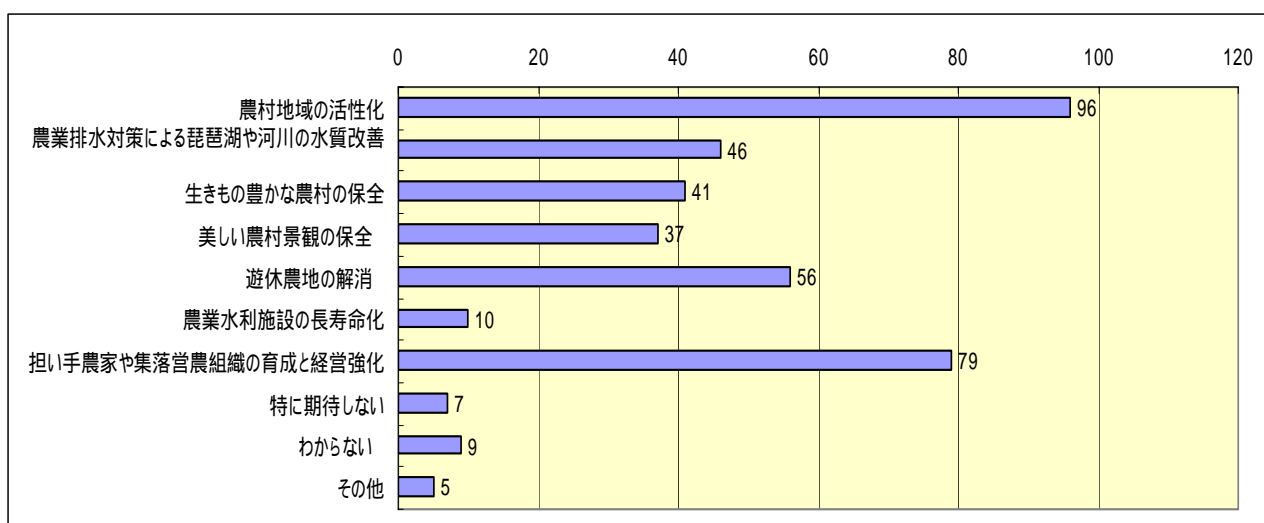
項目	人数(人)	割合(%)
農業や農村の多面的な機能についてもっと県民全体にPRすべき	108	77.1%
農地や農業水利施設などを管理するための苦勞をもっと知ってもらべき	43	30.7%
わからない	15	10.7%
その他	5	3.6%

県民全体に広げるためにすべきこと



問 12 「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」は来年度で一旦終了しますが、その後も支援制度が継続された場合、この取り組みに期待することは何ですか。
 (複数回答可)

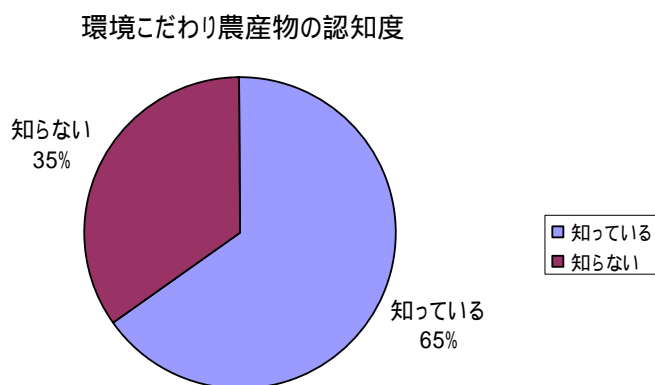
項 目	人数(人)	割合(%)
農村地域の活性化	96	68.6%
農業排水対策による琵琶湖や河川の水質改善	46	32.9%
生きもの豊かな農村の保全	41	29.3%
美しい農村景観の保全	37	26.4%
遊休農地の解消	56	40.0%
農業水利施設の長寿命化	10	7.1%
担い手農家や集落営農組織の育成と経営強化	79	56.4%
特に期待しない	7	5.0%
わからない	9	6.4%
その他	5	3.6%



環境こだわり農産物について

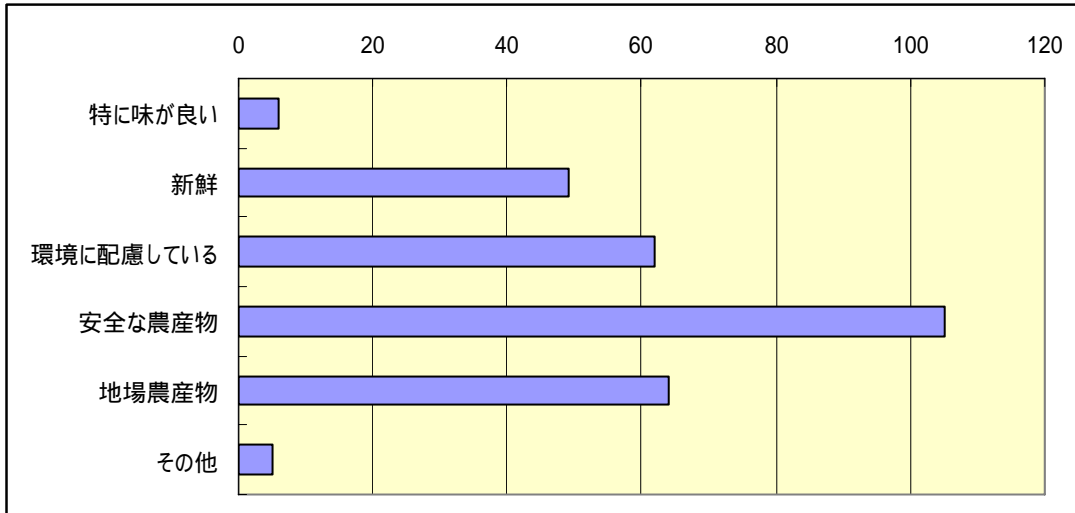
問 13 あなたは、「環境こだわり農産物」を知っていますか。

項 目	人数(人)	割合(%)
知っている	91	65.0%
知らない	49	35.0%
	140	



問 14 あなたは、「環境こだわり農産物」の認証マークから何をイメージしますか。
(複数回答可)

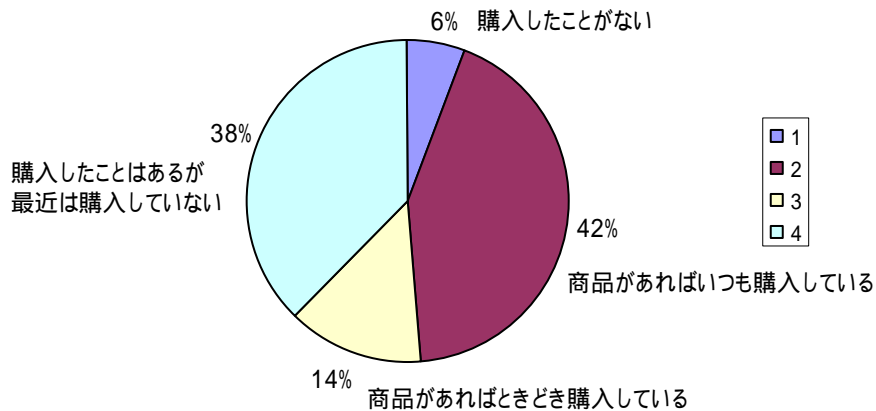
項目	人数(人)	割合(%)
特に味が良い	6	4.3%
新鮮	49	35.0%
環境に配慮している	62	44.3%
安全な農産物	105	75.0%
地場農産物	64	45.7%
その他	5	3.6%



問 15 あなたは、「環境こだわり農産物」を購入していますか。

項目	人数(人)	割合(%)
商品があれば、いつも購入している	8	5.7%
商品があれば、ときどき購入している	60	42.9%
購入したことはあるが、最近では購入していない	19	13.6%
購入したことがない	53	37.9%
合計	140	

環境こだわり農産物の購入について



「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」について 自由意見（抜粋）

食糧の自給率の低下が問題視される中、耕作放棄地や農地の住宅地変換の増大が気になります。物づくりである農業に加工・物販も不可する仕組みを整え、新たな農業従事者に魅力のある場を提供し、新しい発想で活性化していく必要があります。現状の農家の既得権利を守るだけでなく、むしろ新たに参入してこようとしている人、事業主のサポートを充実させるのが良いと思う。

現在の滋賀県は他府県と比べ、若い世代の流入が多いです。しかし、いずれは高齢化の波がやってきます。早い段階で「農業」の重要性を説き、滋賀の農業を発展させていく必要性があると思います。そのためには、農業が身近であり、また商売に成り得る可能性を示すことが、次世代の若者が農業に従事する割合が上がっていくと思います。農業に従事する若者が増えると、自然と農村は発展していくと思います。

県外都市部に滋賀県の農村環境の良好さを積極的にPR活動すべき、特にメディアの活用
学卒の若者を県内に引き留める魅力有る働く場所の環境整備・一昔前のように兼業農家で生活が保全、維持できるような魅力有る生活環境整備・学校教育にも農業教育や体験の頻度を増やすべき

放棄地を活用し市民農園の拡張、増加により非農家者に開放する、講習研修等の実施を増やす

農業法人化の積極的促進と有る程度の行政補助も必要

地産地消を行政指導で啓発の強化

若年者の農業に従事したい方が増えてきている中、安定した収入、並びに生活ができる収入の確保が必要と思われます。

これまでの農業政策は場当たりのものであり、望ましい農業育成という面から掛け離れていたもので、前向きな農業従事者が夢を抱ける様に、安定した収入と労働軽減に向けても配慮して欲しい。

個人単位では農業が成り立ちにくい環境になっているが、一方で農業を国内で継続的に運営していくことは重要であると思う。そのため、できれば民間企業、少なくとも公的法人による農業の地域一体的な事業運営ができる環境づくりをしていくことが重要であり、雇用の確保、食糧自給率の向上にもつながることからも、政策面で積極的に進めていくことが必要と思う。

「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」については、知らない人の方が多いので、もっとPR活動をすべきだと思う。

行政は援助ではなく支援の方法を考えて、遊休農地の有効利用や宅地化を防ぐ対策を前向きに考えてほしい。農業の担い手も世襲以外の方法も検討、具体化が必要でないか。農村がただの観光地になり、農民が商人になるのも個人的には好きではありませんが市街地と農村の交流はもっとあっていいと考えます。

都会育ちの私は全く農作業をしたことが有りません。出来れば地域の方々と繋がりを持ちたいと思いました。なにか出来ることがあればとも思いました。私たちと農村の方との橋渡しを県なり市なりでしていただければと考えています。

農業はとかく「苦勞が多くて見返りが少ない仕事」と言われますが、県や行政がこのような対策を講じ実践されていることは評価すべきことですし、農業に携わる方も、私たち消費者も「安全で確かな食生活と暮らし」が出来ることが大切です。また昨今若い方達が農業に関心を持ち、田舎暮らしに憧れ、実際に町から入植されている事はとても素晴らしいこと

と思います。

全ての農村を維持するのは不可能だと思います。捨てる農村が、あってもいいのではないのでしょうか。

現在、様々な地域の農村部で農地の貸し出しにて収入を得ていることをニュースなどで聞いたことがあります。この仕組みを県としても推進し、補助する中で農地の土地利用が進み、都会の人たちが農業を体験し、農家の方も野菜・果物の育て方をアドバイスをするなど新しい人々とりコミュニケーションがうまれるのではないかと思います。

継続的かつ長い目線での事業化が求められており、相当重要である。予算的背景などにより厳しい側面もあるとは思いますが、事業継続、継続支援が今すぐに求められると考える。

地域の人達も農業に参加することによって農業のすばらしさを知るためにも良い政策だと思います。びわ湖放送などの放送でより県民にPRした方がいいと思います。

農業は食につながり国の施策の基幹だと思います。農村の荒廃は国土の荒廃にもつながります。

農業の保全と農村の活性化を優先とする具体的な施策が必要であり、われわれも関心をもってみたい。

時代を担う若者の健全育成と豊かな地域社会づくりには、不可欠な対策であると考えます。このような対策を積極的に進めていって欲しいと思います。

今回のアンケートに回答するまで、私はこの対策の存在自体知りませんでした。もっと積極的にPRしていくべきではないでしょうか。今年のように雨が多く、集中豪雨にもたびたび見舞われるような年だと、農業用の用水路や排水路、さらには農地自体の整備が重要性を増してくると思います。高齢化がすすんだ農家だけでそれを支えるのは非常に難しいはずなので、行政や農家以外の方の支援をこれからも続けてほしいです。

どんな事業をやっていたのかほとんど知らなかった。対策の費用対効果はどうだったのか知りたい。

農村はやはり失ってはいけないものだと思う。若者に、働いたり、住んでもいいな。と思えるような農村の魅力を伝えられるよう、行政や企業などの助けも、ある程度必要なのではないか。

農業保護を名目に、これ以上農家へ税金を注ぎ込むやり方に、反対します。

農家だけでなく非農家を含めた様々な方が参加するのは大変良いことと思う。普段は農業に関わっていない者でも日本人であればお米を食べていない者はおらず、そのお米は田んぼで出来ていることは子供の頃から知っているので、きっと日本人のDNAには農業の大事さがたたき込まれているはずである。このような取り組みは普段関わりのない者たちに農業の役割を再認識させる良い機会となると思う。